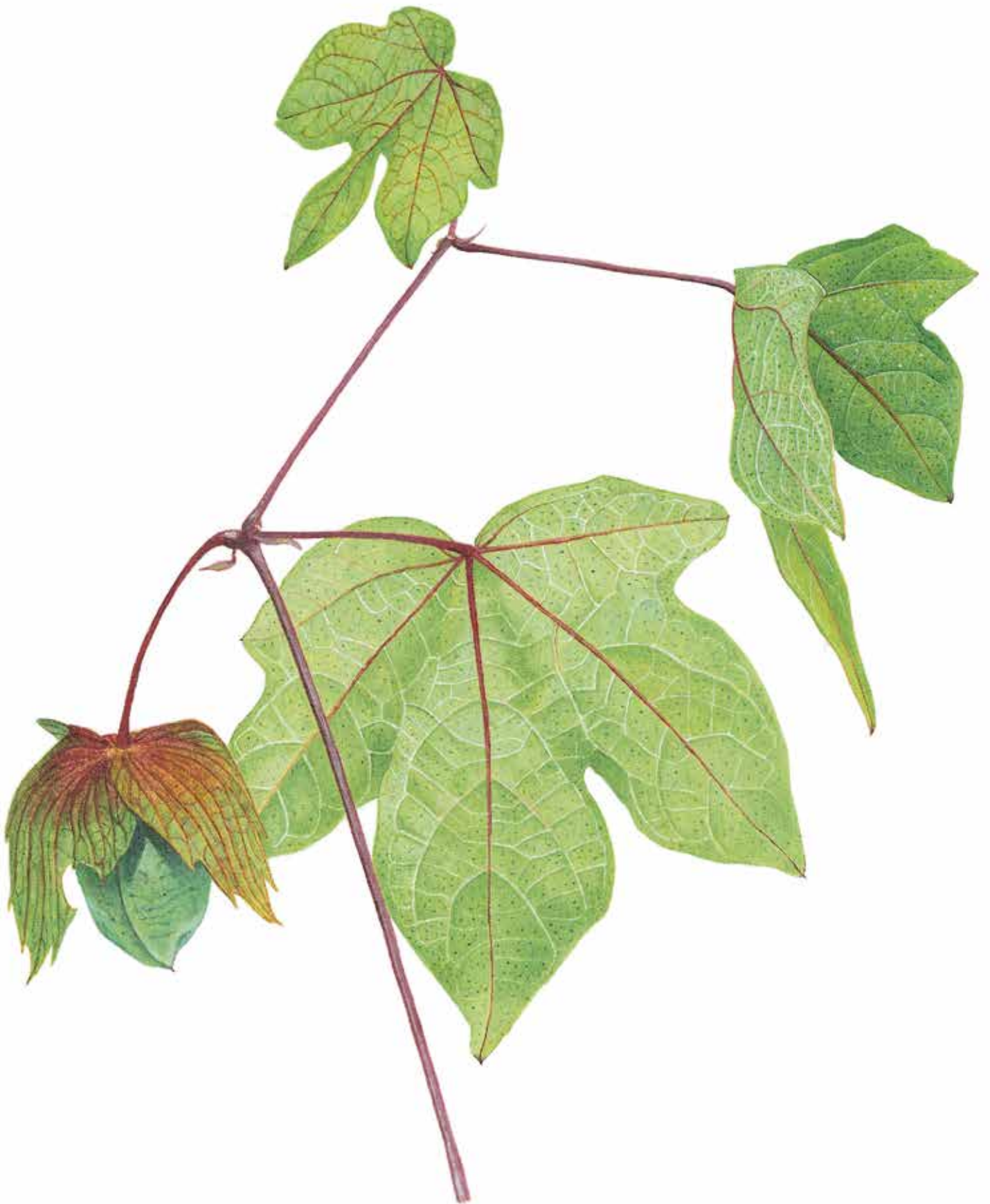


YAMATO Leaf archive



葉画家 群馬直美の「葉っぱアーカイブ」vol.11 2021年10月

《葉画家・群馬直美がこれまでに描いた絵とエッセイをお楽しみください》

絵と文 群馬直美

木綿のハンカチーフ

緑色の桃みたいな実が顔をのぞかせた。なんだか、ゲゲゲの鬼太みたい。
俳句の世界では、熟して綿毛を吐く実の様子を〈桃吹く〉ともいうのだそうだ。

紀元前二世紀頃には、

すでにインドで栽培されていたワタ。

日本で初めて栽培されたのは、平安時代の初期。

799年、三河国に漂着したインド人が、ワタの種をもたらした。

でも、わずか1年で絶えてしまい、本格的に栽培し始めたのは、16世紀以降のことだという。

その後ずいぶん長い間、ワタは貴重なものとされていた。

一般庶民が、蒲団などの詰め物にワタを使えるようになったのは、

江戸時代半ば過ぎ。農山村にまで広く普及したのは、明治時代に入ってから。

刻みミョウガとおろしショウガ、

醤油をちょこっとかけて戴く冷や奴は、おいしい。

型箱に木綿の布を敷いてこしらえる木綿豆腐。

あの食感は、ワタがなかったら味わえない。

ちなみに、

モヘンジョ・ダロの遺跡で発見された

世界最古のワタ製品は、綿布だったそうだ。

(NHKテレビ俳句テキスト『歩いてみよう葉っぱ道』2012年9月号より)

表紙の絵 「ワタの実」 アトリエの鉢植えにて 2011.9.19採集

紙(アルシュ極細)/テンペラ size:311mm×232mm

(2012年6月30日 完成) © Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』群馬直美の木の実の美術館』他。東京都立川市在住。https://www.wood.jp/konoha/

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2021年10月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp